

### 3) 看護用具の工夫 (その1) 足温器について

国立療養所兵庫中央病院

勝田 勇治 大谷 美智子

習田 敬一

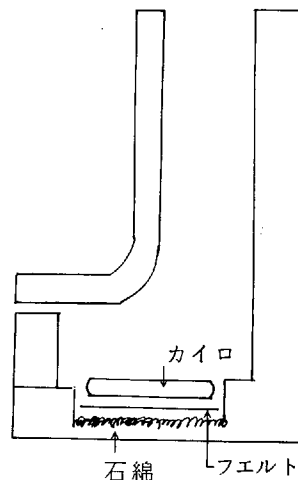
当病棟では冬期全館終日暖房にもかかわらず凍瘡が多く看護上の大きな問題である。これに関して討議を重ねた結果、雪国のワラ靴にヒントを得、体温力がある発泡スチロールを素材として、カイロを用いた足温器の製作を試み、車椅子生活者に使用した結果もあり患者の受け入れも容易であったので報告する。

#### <製作>

材料としては市販の発泡スチロール板厚さ15mmのものを用い、前面カバーには曲げやすい厚さ10mmのものを用いた。接着剤としてはアルコール含有剤はスチロールを溶解するので、エポキシ樹脂剤が適している。中にカイロを直接入れるとスチロールが熱で溶解したので、少量の石綿とフェルトをスチロールとの間に敷くことにより溶解を防ぎ得た。さらに全体にギプス包帯を巻いて補強した。また前回カバーの固定にマジックバンドを使用すると便利である。構造の概略は下図の通りである。

#### <使用効果>

3名にこの足温器を使用し、他の3名を対照者として効果を検討した。足温器内は32℃前後に保たれていた。非使用者にみられた発赤、疼痛、潰瘍は使用者には全くみられず、軽度の搔痒感のみで本人も自覚的に快適であった。この足温器は患者の機能障害度や、足関節拘縮度などの点で適応にある程度の制限があるが、凍瘡の予防、治療に有効であったのでここに報告した。



↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

当病棟では冬期全館終日暖房にもかかわらず凍瘡が多く看護上の大きな問題である。これに関して討議を重ねた結果、雪国のワラ靴にヒントを得、体温力がある発泡スチロールを素材として、カイロを用いた足温器の製作を試み、車椅子生活者に使用した結果もあり患者の受け入れも容易であったので報告する。